

令和 2 年 5 月 14 日現在

機関番号：36102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03119

研究課題名(和文) 中・近世における地方寺院の宗教活動研究のためのデジタルアーカイブ構築

研究課題名(英文) Digital archive construction for religious activity studies of the local temple in the medieval time and modern times

研究代表者

濱田 宣 (Hamada, Akira)

徳島文理大学・文学部・教授

研究者番号：20299332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、広島県尾道市・西國寺所蔵の聖教・典籍等から当寺の歴史と文化の解明を目的とする。通算20年間の研究で17,224点の資料に関するデータを蓄積し『西國寺調査研究報告書第1～18号』に掲載した。聖教は寺院における修学活動の中で生まれたもので日本史学上近年注目されており、また典籍も修学活動の状況を明らかにできる貴重な資料である。

3年間の研究によって、資料に関する68,168コマの画像データをデジタルアーカイブ化した。残り20,000コマの画像データも、今後作業を続け、3年後17,224点の資料データとリンクさせ、仏教学・日本史学等において貴重な研究材料として活用できる状況にする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

西國寺所蔵資料のなかでも、殊に11,412点の聖教は寺院の修学活動の中で生まれた教学・付法・法儀に関わるものとして仏教学において、さらに日本史学等の研究においても着目される貴重な資料である。また地方寺院においてこれだけの点数纏まって伝存する類例は少なく、本研究の意義は大きい。なお、聖教はその資料的性格(宗教的制約)から、寺院においては最極秘と位置付けられていることが多く、研究材料として一般に提供されにくい。

資料のデジタルアーカイブ構築による公開によって諸方面の研究において多大なる寄与となり、また資料の整理・保存までも視野に入れた本研究は、将来への十全な継承に寄与となる。

研究成果の概要(英文)： This study is intended to elucidate history and culture of this temple from Syougyou and Books which Saikou-ji temple in Hiroshima Prefecture Onomichi City possesses. By a study for 20 years, We accumulated the data about the contents of 17,224 points of documents in total and published it in "The Saikoku-ji temple investigation research report No. 1-18". Syougyou was made in the study activity in the temple, and in late years attracts attention in the Japanese historical study. In addition, the Books are the valuable documents which can elucidate the situation of the study activity in the Saikoku-ji temple, too.

By a study for 3 years, We made the image data of 68,168 points the digital archive. We continue working in future and link it to 17,224 points of document data three years later and do the image data of the remainder 20,000 points in the situation that can conjugate as precious study materials in Buddhology, Japan historical study.

研究分野：仏教美術史

キーワード：仏教史学 聖教 典籍 寺院史 日本史 文化史 仏教学 地方史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

広島県尾道市に所在する真言宗醍醐派摩尼山西國寺は、すでに平安時代中期に存在の知られる古刹である。古来、尾道が瀬戸内における海上交通の拠点として、また、山陽道の中央に位置することなどから、西國寺は領主階級や商工業者等から多くの尊崇を得てきた。

本寺には、永保2年(1082)に再興された際、讃岐善通寺の七仏薬師の一つであったものが伝来したという本尊の木造薬師如来坐像(重要文化財・平安時代前期作)など数点の寺宝を除いて、治暦2年(1066)、永和年間(1375~1378)の2度の大きな火災により、堂塔をはじめ諸什物が甚大なる損害を受けた。そのため、これ以前の寺歴を物語る資料は残念ながら乏しいが、これまでの調査において、至徳3年(1386)から永享元年(1429)にかけて再々建されて以降に集積された貴重な文物が数多く伝来していることがわかった。

本研究において対象となった西國寺所蔵資料の点数は、17,712点(2016年8月現在)にもなる。そして内容は、平安時代から近代に至る聖教・典籍類をはじめ、漢籍、古文書、書籍、仏像・仏画、世俗画、仏具など多岐にわたっており、そのほとんどが初見資料であることを確認しており、大変貴重なものであることは言うまでもない。なかでも、寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付法・法儀に関わる聖教や、仏典を中心とする和書・漢籍などからなる典籍は、仏教学はもちろん国語学や国文学、日本史学等の諸学において注目されるものである。

これまで、広島県や尾道市が県史編纂・市史編纂において西國寺の調査研究を行っているものの、所蔵者はこれらのほとんどを調査研究対象として提供されることはなかった。理由は明らかではないが、2000年度に調査研究に取り組んだ時点において、これらを収納している保存函には明治時代以前の封印が貼付されていたものも数多く見受けられ、西國寺におけるこれらの資料の位置づけの高さを示しているものと言えよう。

2001~2003年度：科学研究費補助金基盤研究C「尾道・西國寺所蔵文化財の調査研究」、2004~2006年度：科学研究費補助金基盤研究C「瀬戸内における地方寺院所蔵資料の調査研究」、2007~2010年度：科学研究費補助金基盤研究C「尾道・西國寺における修学・付法活動の調査研究」、続いて2011~2015年度：科学研究費補助金基盤研究C「中・近世における地方寺院の宗教活動の基礎的研究」として採択され、現地調査・資料内容の電子データ化・データの公刊(『西國寺調査研究報告書』の刊行)を継続して進めてきた。また、科研費に加えて大学としても経費を計上して、2000~2002年度：徳島文理大学共同研究「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺の歴史と文化」、2003~2005年度：同「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺所蔵文化財の悉皆記録化1」、2006~2008年度：同「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺所蔵文化財の悉皆記録化2」、2009~2011年度：同「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺所蔵文化財の悉皆記録化3」、2012~2014年度：徳島文理大学特別経費事業「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺所蔵文化財の悉皆記録化4」、2015年度から：同「尾道の中世寺院の調査研究 西國寺所蔵文化財の悉皆記録化5」として継続してきた。なお、資料内容の電子データ化は将来的なデータ公表に向けて、独自にデータ管理システム(ファイルメーカーを基盤とし汎用性のあるもの)を構築した。

2017年4月までの18年間の調査研究において、調査確認した資料点数は、聖教11,628点、典籍5,631点、近世近代資料181点、仏像53点、仏画等219点、合計17,712点、うち電子データ化した資料点数は、聖教5,627点、典籍5,631点、近世近代資料181点、合計11,439点である。また、資料の写真撮影は15,691点、資料整理・保存措置(資料番号の貼付と保存箱への収納)は14,149点を完了していた。さらに、電子データ化したものを『西

『西國寺調査研究報告書』として、第1号(2003年度)聖教 567 点、第2号(2005年度)典籍 375 点、第3号(2006年度)近世近代資料 181 点、第4号(2006年度)聖教 1,090 点、第5号(2007年度)聖教 761 点、第6号(2008年度)典籍 683 点、第7号(2009年度)典籍 763 点、第8号(2010年度)聖教 794 点、第9号(2011年度)典籍 1,243 点、第10号(2012年度)典籍 1,274 点、第11号(2013年度)典籍 1,293 点、第12号(2014年度)聖教 771 点、第13号(2015年度)聖教 889 点、第14号(2016年度)聖教 1,335 点を刊行し、合計 12,019 点の資料データについて公表してきた。なお、本報告書は第15～18号(2017～2019年度)にて残り 5,693 点を収録して完了する予定であった(2019年10月完了)。

## 2. 研究の目的

天平年間開基と伝えられる真言宗醍醐派摩尼山西國寺(広島県尾道市)が所蔵する 17,224 点(2020年3月31日現在/最終資料点数)の聖教・典籍・近世資料等はほとんどが初見資料である。本研究は、2000年度から18年間「科研費基盤研究C」と大学の共同研究等で積み上げてきた基礎的研究成果を基軸にして、資料内容に関するデータと画像のデジタルアーカイブを構築し、その公開により研究対象資料の保存と活用に寄与するものである。殊に 11,412 点(2020年3月31日現在/最終資料点数)を数える聖教は寺院における修学活動のなかで生まれた教学・付法・法儀に関わる貴重な資料で、仏教学はもちろん国語学や日本史学等の諸学においても注目されている。地方寺院にこれだけまとまったの伝存は稀有であり、瀬戸内地域で屈指の古刹西國寺の歴史的・文化的位置づけの高さを示している。

## 3. 研究の方法

本研究の達成目標は、2000年度から19年間かけて確認した西國寺所蔵資料 17,712 点(資料調書作成完了)の資料情報の電子データと約 89,000 コマに及ぶ膨大な画像データがリンクするデジタルアーカイブを構築し、その公開により、貴重な文化遺産の保存と活用に寄与することである。

デジタルアーカイブの構築に向けての作業内容は、約 89,000 コマにのぼる画像(約 80%はネガフィルム)について、

(1)フィルム画像のデジタル化： フィルムの整理(状態・汚れ・画像確認等)、フィルムスキャニング(2400dpi程度)、スキャニングデータチェック(ピント・撮影範囲等確認)、データファイル名変換(資料番号に合わせファイル名をつけ直す)、

(2)デジタル画像の編集： データクリーニング、データチェック(補正・ピント・撮影範囲等確認)、データ変換(適切な圧縮比JPGデータへ変換)、データファイル名変換(資料番号に合わせファイル名をつけ直す)、

(3)デジタルアーカイブ構築： (1)(2)のデータを函番号(西國寺資料は概ね函ごとにまとめて保管(196函))ごとのフォルダ別に仕分け保存、不必要な画像データの除去及び不足する画像データの補填(西國寺における撮影)、資料内容の電子データと画像データの融合によるデジタルアーカイブの構築、

以上である。

なお、2000年度の調査研究開始以来行っている次の内容については、大学の研究費により継続して遂行した。

調査済み資料のうち、未整理・未公刊等のものについて、資料整理(個別番号札の貼付及び保存箱への収納による保存措置)、入力した電子データと原資料との照合による校正作業を行い、これを受けて資料のデータを『西國寺調査研究報告書第1号～第18号』と



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	青木 毅  (Aoki Takesi)  (70258317)	徳島文理大学・文学部・教授    (36102)	
研究分担者	古田 昇  (Furuta Noboru)  (30299333)	徳島文理大学・文学部・教授    (36102)	
研究分担者	橋詰 茂  (Hasizume Sigeru)  (40462072)	徳島文理大学・文学部・教授    (36102)	
研究分担者	丸尾 寛  (Maruo Hiroshi)  (50772141)	徳島文理大学・文学部・教授    (36102)	